

第二中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

第二中学校 三の丸小学校

五軒小学校 柳河小学校

めざす児童生徒像 地域を愛し、笑顔を絶やさず、前向きに行動する児童生徒

研究主題 地域を愛し、笑顔を絶やさず、前向きに行動する児童生徒の育成

1 主題設定の理由

第二中学校区は、三の丸小学校、五軒小学校、柳河小学校（一部は第一中学校へ進学）の3つの小学校が第二中学校に進学する3小1中の中学校区である。本中学校区ではこれまでに、教職員間では「小中夏季合同研修会」や「小中協働地区巡視」、「相互授業参観」など、児童生徒間では「先輩（中学生）から話を聞く会」などを実施し、児童生徒の実態を把握したり、情報を交換したりすることで、小中の連携を深めてきた。しかし、児童生徒の発達段階を踏まえた9年間を見通した取組であったかという点、不十分さを感じる面がある。各小中学校や地域の特性を踏まえた系統的で継続的な小中一貫教育を実践することが、本中学校区のこれからの課題であると考えられる。

また、本中学校区には日本遺産に登録されている弘道館や偕楽園をはじめ、歴史に関わる文化遺産が数多く存在し、児童生徒はこれらの文化遺産に囲まれて日々の生活を送っている。これらの文化遺産については、これまでも各小中学校ごとに、水戸まごころタイムにおいて、テーマを設定し、調査活動を通して理解を深めてきた。しかし、小中間や小小間において、互いの取組内容が十分に理解されないまま、小学校から中学校へと接続がなされていた。「めざす児童生徒像」にある「地域を愛し」を推進するためには、これらの文化遺産について児童生徒が幅広く理解し、自分たちの地域に誇りをもてるようにすることが大切であると考えられる。そのためには、「知」「徳」「体」を基盤にし、「歴史（水戸まごころタイム）」を軸に各学校の取組内容を共有しながら、系統的で継続的な小中一貫教育を推進していく必要があると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

「知」「徳」「体」を基盤にし、「歴史（水戸まごころタイム）」を軸とした系統的で継続的な小中一貫教育を推進し、次の4つのような資質や能力をもつ児童生徒を育成する。

- 水戸の歴史を語れる子供
- 話をよく聴き、よく考える子供
- 自分からあいさつができる子供
- 進んで働く子供

3 具体的な取組内容

(1) 知の部会

- ① 小中合同教科部員会

第1回 7月 各学校の「学習のきまり」と中学校の学習に向けての取組を確認

学習面でも、小学校から中学校への接続を円滑にするために、各学校の「学習のきまり」を確認した。また、学力向上のために、小学校で必ず定着させておくべきものを中学校の各教科担当から話してもらった。

第2回 9月 二中学区の学習定着状況と今後の取組を確認

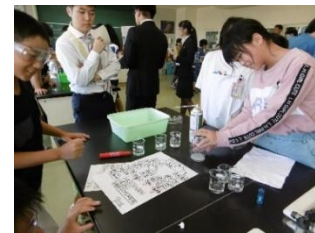
6年生と中学2年生の学習定着状況調査後、知の部会のメンバーと6年生担任、教務主任で、各教科に分かれて、二中学区の学習定着の分析、参加者全員で今後、授業で取り組むべきことを話し合った。

第3回 12月 二中学区の学習定着状況と今後の取組を確認

2回目の学習定着状況調査結果について、前回と同じように話し合った。

② 相互授業参観

各学校の計画訪問等の際に相互授業参観をした。



(2) 徳の部会

① いじめ解決フォーラムの共有

・各学校のいじめ解決フォーラムのスローガンを各学校で掲示して取組を共有した。

② 小中合同あいさつ運動

・中学生が卒業小学校に朝立ち寄って、小学生と一緒にあいさつ運動を11月と2月に実施した。

・最初は緊張していた中学生も小学生の様子を見ながら、笑顔であいさつをすることができた。小学生だけのあいさつ運動より活気が出て、あいさつ運動が盛り上がった。



③ 小中の交流

・「学校へようこそ」の際に、中学生が小学校に出向き、6年生に中学校生活・学習について、説明する時間を設定した。中学校進学を不安に感じていた6年生も、グループに分かれて直接中学生に質問できたので、進学が楽しみになった。

・小学校6年生が中学校を訪問する中で、授業体験や部活動体験だけでなく、生徒会が中学校の紹介を企画して、中学校生活を分かりやすく説明した。中学生がどんな生徒像を目指しながら生活を送っているのか、6年生も楽しく理解することができた。

(3) 体の部会

① 部員会の実施

第1回 7月 年間の見通し，第2回部員会の内容

昨年度末の計画を再確認した。

第2回 8月 部員研修会

部員研修会では，陸上記録会・継走大会の小学校3校の合同練習の日時を検討した。

第3回 12月 体力テスト結果分析と課題・対策の検討

体力テストの結果を持ち寄り，二中学校区の児童生徒の苦手な種目を洗い出し，その対策となるための運動を話し合った。12月から各学校において実践を始めた。

第4回 1月 今年度の反省，次年度に向けて

小学校3校の陸上記録会・継走大会の合同練習が行えなかったことから，次年度に向けて中学校から各小学校への出前指導を行う方向になった。

② 実践事例

- ・第二中学校拡大学校保健委員会への部員の参加
- ・五軒小学校において陸上記録会・継走大会の3校合同練習（2日間）
※国体観戦と重なり中止
- ・体力テストの分析結果から，3つの種目の技能向上のための運動の実践
※課題となった3つの種目・・・ボールスロー，握力，長座体前屈



【ボールスロー対策の運動】
大きめのボールを使ってフォームの確認をした



【握力対策の運動】
準備運動の中にグーパーを繰り返す動きを取り入れた



【長座体前屈対策の運動】
押す側が手首の向きに気を付けて背中を押す

- ・第二中学校の保護者説明会の日に，各校の小学6年生部活動体験の実施

③ 黙働

- ・第二中学校で行っていた「黙働」を3小学校でも学校全体で取り組んだ。音がない清掃により，それまでの様子と比べて，集中して働く児童が多くなった。また小学校生活と中学校生活とのつながりをもつことができよかった。



④ ボランティア活動

- ・「進んで働く子供」を育てるために，朝のボランティア活動として行ったり，児童からボランティアを募って活動したりするなど，3つの小学校でボランティア活動を取り入れた。進んで働く児童の姿がどの学校でも多く見られた。

(4) 歴史の部会

① 小学校への出前授業及び郷土教育資料の共有

- ・第二中学校社会科教員が，三の丸小学校（10月），五軒小学校（11月），柳河小学校（12

月)にて郷土教育に関する出前授業を行った。内容は、水戸藩や水戸城の歴史を踏まえて、各小学校区の歴史的背景に応じたものとした。具体的には、三の丸小学校では、水戸城のつくりについて、五軒小学校では、水戸城の城下町のつくりについて、柳河小学校では、農村に住む人々の生活について扱った。

- ・出前授業に用いたパワーポイント資料、紙媒体の資料等のデータは、CD-ROMにして各小学校に配付した。また、授業で使用した学習資料を、第二中学校の第1学年で実施している「二の丸検定」向けの学習資料や、第二中学校の観光ボランティアグループ「魁二の丸隊」向けの学習資料に改変し、中学校での郷土教育に活用した。



② テレビ会議システムを活用した小小連携

- ・三の丸小学校と五軒小学校の6年生がテレビ会議システムを活用して、それぞれが探究している弘道館や七面焼について話し合い、地域の歴史的な遺産についての理解を深めた。同じ場所に学習の場を設けなくても、児童間が交流することができたことは、とても有意義であった。



4 成果（進捗状況と今後の課題）

(1) 進捗状況

- 夏季研修会や部員研修会、各種訪問時の相互授業参観を通し、目標とする目指す児童生徒像に向けて小中を見通して子供たちを育てていく意識が高まった。
- 様々な部分で小中共通、小小共通で取り組む内容を決定し実践をすることができ、相互のつながりがもてるようになった。
- 教育情報ネットワークのテレビ会議システムを活用して、それぞれの学校にいても、児童が交流できる授業を実践できたことは、来年度に向けてどのようにシステムを活用していくか見直しをもつことができた。

(2) 今後の課題

- 施設分離型の学校区なので、研修会や会議の持ち方、児童生徒の交流の持ち方をテレビ会議システムを活用するなど、どのように実施していくか見直していきたい。
- 教職員間だけでなく、児童生徒間での意識向上を目指して、小中連携してできる具体的な内容を考えて実践していきたい。
- これまで実施してきた郷土教育に関わる各学校の独自の取組（例えば、第二中学校の「二の丸検定」や「魁二の丸隊」）を生かしつつ体系的な小中一貫した郷土教育を目指し、小中9年間を通じて、地域を愛し、水戸を語る生徒の育成に向けて、次年度の取組や組織を確認・整理していきたい。